

「特別講演2」では、熊本大学大学院生命科学研究所 遺伝子機能応用学の甲斐広文教授に、平成二十九度から熊本大学と地域企業が連携して新たにスタートした天然物創薬プロジェクトの研究体制ならびに希少疾患から慢性疾患への展開に関する研究成果をご紹介いただきました。

十一月十八日の「特別講演3」では国立がん研究センター先端医療開発センター新薬開発分野の松村保広分野長の研究室にて確立した Enhanced Permeability and Retention (EPR) 効果と関与する抗体についての知見をご紹介頂きました。

「特別講演4」においては、金沢大学がん進展制御研究所 腫瘍遺伝学の大島正伸教授に遺伝子変異の蓄積・炎症性腫瘍微小環境と大腸癌悪性化機構の関連についてご講演賜りました。

さらに、今回は、新進気鋭の若手研究者に最新の研究成果を発表していただく「Young researcher presentation」というセッションを設けました。発表いただいた五人の先生方、藤井正幸先生（慶應義塾大学）、神田光郎先生（名古屋大学）、安藤幸滋先生（九州大学）、石本崇胤先生（熊本大学）、早河翼先生（東京大学）のプレゼンテーションはいずれも素晴らしく、この発表を契機に今後更に飛躍されることを確信いたしました。

最後になりましたが、開催にあたり多大なご支援を頂きました肥後医育振興会、熊本大学生命科学系国際共同研究拠点、

そして熊本大学消化器外科の同門の先生方に厚く御礼申し上げます。

第五十八回日本肺癌学会九州支部学術集会・第四十一回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会報告

熊本大学大学院生命科学研究所

呼吸器外科学分野 教授 鈴木 実

平成三十年二月二十三日（金）、二十

四日（土）の二日間、ホテルメルパルク熊本で、第五十八回日本肺癌学会九州支部学術集会・第四十一回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会を開催いたしました。

メインテーマは、「超高齢化社会に備えよ」としました。超高齢化社会のWHOの定義は六十五歳以上の人口が総人口の二一%を超えていることを言うのですが、現在の日本人はすでに二六%と、すでに超高齢化社会に突入しています。今後も肺癌は増加することが予想されますが、その日進月歩の診断・治療を私たちは確実に吸収・実践していかなくてはなりません。今回の学会が私たちにとって貴重な財産になるようにと企画いたしました。その結果、一〇三の演題が集まり、さらに特別講演等が十二演題あり、非常に充実した内容となりました。

具体的には、一般演題は珍しい症例ももちろんありますが、教訓になる症例・勉強になる症例も多かったです。特別演題に関しては、内外科治療・特に免疫

治療とドライバー変異の治療の進歩、病理診断の最新の話題から気管支鏡の診断治療の最新のテクニクなど、すべて私たちの明日への医療に役立つものばかりでした。毛色の変わった特別演題として「日本には金がない」という演題が二日目朝にありましたが、昨今の医療費高騰に警鐘を鳴らすものとして、多くの聴衆が詰めかけました。

さらに、今学会の目玉として、呼吸器内視鏡学会の各セッションで、ひとつ優秀演題を座長の先生方を選んでいただき、その場で「気管支鏡所見の読み」という本を表彰・贈呈いたしました。この本は、中日病院の森下宗彦先生、そして呼吸器内視鏡学会九州支部長の永安武先生のご高配により、ぜひ呼吸器内視鏡の進歩のためにと贈呈されたものです。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。この企画は好評をいただき、学会後も何かと話題に上りました。

以上のように、盛りだくさんの学会となりましたが、学会当日は、天気にも恵まれ、学生を含めて、三百名を超す出席者数となりました。

なお、二月二十四日午後、学会終了後ですが、熊本大学呼吸器外科、熊本リビング新聞社と西日本がん研究機構（WJOG）の共催で、肺がんに関する市民公開講座も開催いたしました。これは二時間ほどでしたが、二百名を超える市民の方々にご参加いただき、大変な盛況でした。



2月23日、学会開始前に撮影

最後になりましたが、本学会へ多大なご支援をいただきました関係機関の皆様、特に肥後医育振興会の皆様には、心から感謝申し上げます。おかげさまで、本報告のように無事学会を終えることができました。今後皆様のご指導・鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

平成二十九年度熊大病院群卒後臨床研修プログラム研修医育成報告

熊本大学医学部附属病院総合臨床研修センター長 山本 達郎

平素より熊大病院群卒後臨床研修プログラムの研修医の指導・育成にご協力頂